

徳島教育大綱（案）

1 大綱の趣旨

（教育の在り方）

教育は、人をつくり、心身ともに健やかな県民の育成を期すとともに、社会の存立・繁栄の基盤を形成するものである。これからの教育は、この社会の根本をなす普遍的な役割を果たすために、社会変化を主体的に見据えた一歩先の目指すべき姿を描き、それを実現させていかななければならない。

（取り組むべき課題）

我が国の人口は、今後、加速度的に減少することが強く懸念されており、人口減少の克服と東京一極集中の是正を目指す地方創生が、国及び地方にとって、一刻の猶予も許されない待ったなしの課題となっている。

この喫緊の課題に対し、本県は、全国に先んじて全国屈指のブロードバンド環境を活用したサテライトオフィス・プロジェクトをはじめ、数多くの課題解決の処方箋を創造し、発信してきている。

こうした取り組みをもう一段高い次元へと進化させ、「とくしま新未来」を創造していくためには、本県の現在、そして将来を担う「人づくり」を支える「徳島ならでは」の教育が重要であり、これは、まさに地方創生の原動力となるものである。

本県においては、遍路文化やお接待を通じて育まれた「おもてなしの心」、そして、この「おもてなしの心」に裏付けられたベートーヴェン第九アジア初演の地である板東俘虜収容所における奇跡の交流など「人」を大切にする歴史や風土、また、阿波藍の時代から「ものづくり」の伝統に脈々と受け継がれてきた「進取の気質」に満ちた県民性がある。

この歴史と風土、気質を引継ぎ、更に進化させることにより、本県の宝である「人」を学校・家庭・地域のみならず、県民挙げてまさに「挙県一致」で育むとともに、子どもたちが持つ無限の可能性をしっかりと花開かせ、誰もが夢に向かって挑戦でき、努力が報われ主役になれる徳島の実現に向け、未来を見据えた教育の充実、効果的な実施に取り組むことが重要である。

（教育行政推進の方向性）

こうした考え方にに基づき、知事と教育委員会が緊密に連携し、徳島の教育力を結集させ、創意工夫を凝らした教育を実践するため、本県における教育、学術、文化及びスポーツの振興に関する総合的な施策を「徳島教育大綱（仮称）」として定める。

今後、総合教育会議において、随時協議・調整を行いながら施策の進行状況や効果を検証し、着実な推進を図るとともに、「挙県一致」で本県教育を強力に推進していくとの強い意志のもと、教育関係者や学識経験者、地元企業関係者などからの意見聴取をはじめ、県民の願いや思い、現場の声を大切にして、迅速に教育施策に反映させていく。

2 基本方針

「徳島ならではの」の教育により、
大きな夢や高い目標を持って、困難にぶつかっても挑戦し続け、
未来を切り拓いていく、本県の宝である「人財」の育成を目指します。

とくしまの未来を切り拓く、夢あふれる「人財」の育成

「人財」の具体像

- 社会のグローバル化、情報化、少子高齢化など、社会情勢がめまぐるしく変化する時代において、様々な課題の解決に向けて、新たな視点や発想に基づく価値を創造し、自らの行動により、未来を切り拓いていく人財
- 本県の豊かな自然や伝統文化、新鮮で安全・安心な食材、さらには、全国屈指のブロードバンド環境など、「可能性の宝庫・徳島」の魅力を実感し、徳島に誇りを持つとともに、多様な価値観を理解する人財
- 夢を抱き、その実現に向け、失敗を恐れず、果敢に挑戦する情熱あふれる人財
- 地域や人と人とのつながりを大切にし、生涯を通じて学び成長し続けながら社会に貢献する人財

3 推進期間

平成27年度から30年度までの4年間

4 重点項目

基本方針に掲げる人財を育成するため、あらゆる分野・世代の教育力を結集し、「徳島ならではの」の特色あふれる未来志向の教育施策を積極的に推進する。

この施策を着実に推進していくため、組織横断的な体制で取り組むとともに、市町村や関係機関とも、より一層有機的な連携を図るとともに、スピード感を持って各種施策を展開する。

I 地方創生から日本創成へ！「徳島ならではの」の教育の推進

人口減少に歯止めをかける地方創生の実現に向け、「とくしま新未来」の担い手を生み出す「徳島ならではの」の教育を強力に推進する。

時代を先取りした魅力あふれる教育環境を創造し、未来を切り拓く人財を育成することにより、地方創生、ひいては日本創成を成し遂げていく。

① 個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進

【多様で特色ある能力・個性を伸ばす教育の推進】

変化の激しい時代を生きる子どもたちが、それぞれの個性や能力に応じてこれからの社会を生き抜いていく力を身につけ、可能性をしっかりと開花させるための教育を推進する。

学力、スポーツ、文化芸術の各分野を牽引するリーディングハイスクールによる戦略的な学校づくりや新たな可能性を拓く専門学科の創設、高等教育機関との連携・強化など一人ひとりの個性を重視し、可能性を最大限に伸長する教育を推進する。

【障がいによる困難を克服し、個性輝く自立を支援】

福祉・教育・医療・就労の機能が結集した発達障がい者総合支援ゾーンを中心とした徳島モデルの推進、障がい福祉サービスと特別支援教育が補完し合った就学前及び在学中の切れ目ない支援、障がい特性を十分に反映した就職、福祉的就労や進学による自立の促進など、障がいのある人に対する本県ならではの重層的な支援を展開し、それぞれの個性が輝き活躍する機会を創出する。

【次代を生きるキャリア教育の推進】

予測困難な時代を主体的に考え、生き抜く力を育成するとともに、一人ひとりの社会的・職業的自立に向けた能力の向上や勤労観・職業観の育成を図るため、小学校での職場見学や中学校の職業体験、高校におけるインターンシップなど発達段階に応じたキャリア教育を推進し、社会に貢献する人財育成を図る。

② 人口減少社会に挑戦する「徳島モデル」の学校づくり

【徳島発の小中一貫教育の推進】

小規模化する学校を存続させ、かつ教育の質を保障するため、地理的に分散した小中学校が人的・物的に連携する「チェーンスクール」や同一地域の学校、保育所、社会教育施設などが地域一体で教育に取り組む「パッケージスクール」という徳島発の小中一貫教育を全県に展開する。

【全国屈指の光ブロードバンド環境を活用した教育の推進】

本県の強みである「全国屈指の光ブロードバンド環境」を活用し、テレビ会議システムでの遠隔授業の実施や、タブレット端末を取り入れた特色ある指導方法の確立など、ICTを効果的に活用し、教育の多様化と効率化を図るとともに、スーパーハイビジョン（4K・8K）の教育分野での展開を推進する。

【二地域居住を加速する学校間移動の実現】

「二地域居住」を促進するため、地方と都市の学校間移動を容易にし、双方で教育を受けることにより、それぞれの良さを実感し、多様な価値観を身につけることができる「デュアルスクール」を創設する。

③ 災害を迎え撃つ防災教育の推進

【防災知識の普及・啓発の推進】

南海トラフの巨大地震をはじめとする震災、風水害、火災等の災害から、生命・身体・財産を守り、被害を最小限に抑えるために、全ての県民が各自の状況に応じた自助、共助の防災活動ができることを目指し、幼児期から発達段階に応じてあらゆる機会を通じて防災についての理解と関心を深めることができるよう、防災啓発・防災生涯学習を推進する。

【学校を核とした地域防災力の向上】

県立学校の避難所としての機能を強化するとともに、消防団や自主防災組織といった、地域の様々な主体との緊密な連携による防災学習や訓練を実施することにより、地域の一員としての防災意識の一層の向上、災害発生時における支援活動への積極的な参画を促進し、地域と協働の防災体制づくりを推進する。

【地域防災を担う人財の育成】

未来の担い手となる中学・高校生も含めて、自主防災組織等の活動における地域防災リーダーとして、防災士の資格取得を推進し、学校の防災クラブ活動や徳島県立防災センターの防災啓発サポーター活動等を通じた知識・技能の向上を図るとともに、市町村と連携した住民主体の避難所運営体制づくりを主導する快適避難所運営リーダーを養成するなど、地域防災を担う人財の育成を強力に推進する。

Ⅱ 一人ひとりが輝く！徳島の未来を育む教育の推進

子どもたち一人ひとりが夢や希望を持ち、それに向かって努力し続ける力を身に付けるとともに、お互いに尊重し合い、能力や個性を発揮しながら、誰もが主役として輝く教育を推進する。

地域の宝である子どもたちが、家庭や地域、学校で大切に生まれ、豊かな人間性や社会性を身につけて健やかに成長し、元気な子どもたちの笑顔があふれる徳島を創造する。

① 確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成

【「知徳体」が一体となった成長を支援】

子どもたちが、夢に向かって努力し、たくましく生きるために、心身ともに健康で、幅広い知識や教養、豊かな情操、道徳心などをバランスよく習得し、総合的な人間力を高める教育を推進する。

学校教育において、それぞれの校種における連続性のある教育活動の推進により、小一プロブレムや中一ギャップの解消に努め、子どもたちの笑顔あふれる学びの場を創造するとともに、「学力向上『徹底』プロジェクト」による学力の向上、「元気なあわっ子憲章」に基づく子どもの健康づくりなど、「知徳体」が一体となった成長を支援し、社会における一員として、自立し、協働できる人財を育成する。

【質の高い幼児教育の推進】

県内全ての乳幼児が養育環境に関わらず、生涯にわたる人格形成の基礎を培う質の高い幼児教育・保育を提供するため、「認定こども園」の設置促進、保育教諭、幼稚園教諭及び保育士に対する研修の充実など必要な環境整備に取り組みるとともに、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながる発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実を図る。

【生命・絆の大切さに関する教育の推進】

中学・高校生をはじめとする若い世代に対して、かけがえのない生命を守るため、安全・安心な妊娠・出産に関する知識や情報を提供し、ライフプランの意識付けを行うとともに、経済優先・個人優先の価値観だけでなく、子どもを生み、育てることの意義、子どもや家庭の大切さについて理解を深める取り組みを推進する。

【子どもたちの健全な生活を守り抜く環境づくり】

深刻化・複雑化する子どもの問題行動等に対し、子どもたちの尊厳が守られ、健全な生活が送れるよう、学校・家庭・地域が協働して、より多くの大人が子どもの悩みや相談を受け止めることができる環境づくりを推進する。

特に、いじめについては、児童生徒が、周囲の友人や教職員と信頼できる関係の中、規律正しい態度で主体的に参加・活躍できる授業や行事に取り組むとともに、いじめ問題について学び、教職員と一体となって、いじめの芽を敏感に察知し、絶対にいじめを許さない学校づくりを進める。

【未来を拓く教職員の育成】

すべての教職員が主体的に学び、自己を高め、学校目標を達成できるよう、ライフステージに応じた体系的な研修の実施や心身の健康保持・増進、ワークライフバランスの浸透を図ることにより、生き生きとみんなが輝く学校づくりを推進する。

【教職員の負担軽減と経営感覚の醸成】

教職員が「子ども目線」に立ち、一人ひとりの児童生徒に向き合える環境を整えるため、ICTの利活用をはじめ不断の業務改善による負担軽減を推進するとともに、教育予算が未来への先行投資であり、かつ、国民の税金によって支えられているとの認識のもと、社会の変化や動きに的確に対応した経営感覚・コスト意識の醸成を図る。

② 学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進

【地域総ぐるみの子育ての実現】

地域の実情に応じた学校と家庭・地域の連携協働体制を構築するとともに、週末の教育活動の充実や放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的又は連携した実施、空き教室の有効活用など組織横断的な連携はもとより、市町村、企業等を含めた「オール徳島」で施策を推進する。

人生経験豊富な高齢者の子育て支援活動への参加やユニバーサルカフェにおける多世代交流など、人と人とのつながりや絆を深め、地域の子育て力や教育力の強化を図る。

【すべての子どもに均等な教育機会の提供】

子どもへの教育機会の提供が生まれ育った環境によって左右されることなくまた、貧困が世代を超えて連鎖することのないよう、学校をプラットフォームとした福祉関係機関との連携、生活困窮世帯等への就学支援の充実など、次代を担うすべての子どもが、将来に夢と希望を持って成長していける社会の実現のため、子どもの貧困対策を推進する。

【豊かな心の育成】

他人を思いやる心やおもてなしの心、自分への信頼感や自信、生命を尊重する心、自然や美しいものに感動する心、正義や公正さを重んじる心など豊かな心を育むため、家庭や地域と連携した体験活動・交流など、多様な機会を通じ、道徳性を培う教育の充実を図る。

【家庭教育支援の充実】

家庭は、子どもたちの健やかな育ちの基盤であり、すべての教育の出発点であるとの認識のもと、社会全体で家庭教育をサポートする気運を醸成するとともに、関連する情報の提供や相談対応、子育て支援サービスの充実など、各家庭の自主的な取り組みを多面的に支援する。

【生涯にわたって学び続ける環境づくり】

まなびーあ徳島やシルバー大学校など、子どもから高齢者まで県民一人ひとりが生涯にわたって学び続ける徳島ならではの学習機会を提供するとともに、文化の森総合公園や公民館等の社会教育施設を拠点とした活動の充実を図る。

県民が学び続けた知識を地域に還元できるよう、とくしま学博士やシニアアドバイザーなどが活躍できる機会を充実する。

③ 時代の潮流を見据えた学びの推進

【将来を担う若者への主権者教育の充実】

選挙権年齢が18歳以上に引下げられたことに伴い、小・中・高校のそれぞれの段階において、政治や選挙制度に対する理解と参加意識を高めるとともに、模擬投票などの体験型学習を実施することにより、社会に参加し、自ら考え、自ら判断する主権者を育成する教育の充実を図る。

【全国モデルとなる消費者教育の推進】

消費者情報センターにおける相談体制の充実、消費者教育の拠点としての機能強化を図るとともに、就学前の金銭教育から消費者大学校・大学院における地域の消費者活動を推進するリーダーの養成など各ライフステージでの体系的な取り組み、高校生が発信するエシカル消費の実践など、全国モデルとなる消費者教育を推進する。

【未来へつなぐ環境教育の推進】

風力・水力・太陽光等の発電や環境学習の拠点となる施設の整備、全国展開をリードする水素社会の構築や水素啓発・体験ゾーンの活用など、未来のエネルギーである自然エネルギーと水素への関心を高め、その普及促進を図るとともに、参加体験型学習や自然保護活動を通じて、環境を保全する新たな担い手を育成するなど、美しく豊かな環境を未来へつなぐ教育を推進する。

【新たな成長産業を生み出すシステムの構築】

本県経済の基幹をなし、良質な雇用の場である「ものづくり産業」において、著しく進展する技術革新に対応し、新たな価値を生み出していくため、これを担う創造性豊かな人材を育成する実践的な職業教育体系を構築する。

県立高校における農・工・商連携の推進、県立農業大学校の専修学校化、全国初の6次産業化をテーマとした徳島大学生物資源産業学部の開設など、将来の選択肢を広げる基盤づくりが展開される中、本県の強みである農林水産物の付加価値をさらに高めるとともに、新たな「とくしまブランド」を生み出す発想と産業を開拓する創造的実行力を育成するため、新たな6次産業化人材育成システムを構築する。

Ⅲ グローバル社会で活躍！徳島から世界への扉をひらく教育の推進

豊かな自然や地域に受け継がれている伝統文化などに直接触れ、体感することにより、郷土への愛情を育むとともに、その魅力を積極的に発信する。

「ふるさと徳島」への誇りを胸に、多様な価値観への理解と国際的な視野を持ち、あふれる「進取の気質」で才能を磨き、世界を舞台に活躍するグローバルな人を育てる。

① 徳島を愛する心の育成と「とくしま回帰」の促進

【郷土愛を育む教育の推進】

県民一人ひとりが「ふるさと徳島」への誇りを持ち、郷土を愛する心を醸成するため、地域資源を活かした多様な体験・交流活動の機会を創出する。

あわ文化や近現代の優れた芸術作品に直接触れあう機会を設けるとともに、徳島に根付いた文化について学び、ふるさと徳島の魅力を発信する「あわっ子文化大使」など、次代のあわ文化の担い手を育成する。

県内高等教育機関と連携して、地域の課題解決や活性化に向けた地域連携フィールドワーク講座の開講、ボランティア活動を大学の単位として認める「ボランティアパスポート」拡充に取り組むなど、地方創生を担う人財を育成する。

【大学と地域の連携による「知のフィールド」の拡大】

大学との連携による地域の課題解決や活性化を図るため、大学等サテライトオフィス開設支援制度を活用し、県内外の大学サテライトオフィスの誘致により、地域に密着した教育・研究活動や公開講座をはじめとした地域貢献活動を促進する。

【若者による未来志向の政策提案】

若者が自由な発想と新たな視点で、自由闊達に夢を語り、従来の枠にとらわれない政策を提案する「とくしま若者未来夢づくりセンター」の活動を通じ、地域への理解を深め、多様な価値観を共有しながら創りあげたアイデアが新たな政策として反映される達成感を味わうことで、「ふるさと徳島」に貢献する意欲あふれる人財を育成する。

【「とくしま回帰」の促進】

大学生等の県内就業を促進し、本県産業を担う人材の確保を図るため、経済団体や企業と連携して、奨学金返還支援制度を創設し、県内事業所等に一定期間就業した学生の奨学金の返還を支援するとともに、県内企業のインターンシップの拡充を図るなど、若者の地元定着を促進する。

【世界遺産登録への挑戦】

文化遺産等の保存・活用を進め、先人の貴重な遺産を後世に引き継ぐとともに、地域への誇りや愛着を育むため、「四国八十八箇所霊場と遍路道」、「鳴門の渦潮」の世界遺産登録を目指した取り組みを推進する。

② 世界に羽ばたくグローバル人材の育成

【徳島発、世界を体感できる環境づくり】

Tokushima英語村プロジェクト、徳島ウインターキャンプなど本県独自の取り組みにおいて、志高き仲間との切磋琢磨を通し、コミュニケーション能力、語学力はもとより、総合的な人間力を高め、次代のトップリーダーとして育成し、世界に羽ばたく教育を推進する。

海外の学校との交流活動の展開や高等教育機関、経済団体、企業が一体となって海外留学や国内外インターンシップ活動を支援することにより、グローバルな視点と地域の視点（ローカル）を兼ね備えた「グローバル人材」を育成する。

【科学の魅力を実感し、世界に挑戦】

県内外の大学生等が、県内の高校生と一緒に学び、科学の素養を磨く「とくしま科学技術アカデミー」を創設するとともに、県内の小・中学生へ体験型の科学の出前講座などを実施する体験型講座を開講し、科学技術の未来を切り拓く人材を育成する。

日本が世界に誇る科学分野において、自主的に取り組む能力と意欲のある子どもたちが、知識を旺盛に吸収し、自分自身で真理を探究しながら、国際科学オリンピックや科学の甲子園などを目指し、より高い次元へと自己研鑽するチャレンジを支援する。

③ 国際舞台で躍動するアスリート、アーティストの育成

【世界で活躍する「スポーツ王国とくしま」づくり】

将来性、潜在能力の高い人材を発掘し、トップレベルの競技者へと育成するため、ジュニア期からの一貫した指導やスポーツ医・科学を活用した集中的な育成、トップスポーツ校による重点的な競技力の強化、有望選手への支援など各種施策を積極的に展開し、2020年東京オリンピック・パラリンピックへ本県からのアスリート輩出を目指す。

【世界に輝く「あわ文化」の創造・発信】

徳島ならではの「文化プログラム」を創造し、東京オリンピック・パラリンピックを見据え世界に向け発信するとともに、一流の芸術文化を鑑賞・体験する機会を創出し、徳島から世界へ羽ばたく創造性豊かなアーティストを育成する。